

T S2/5/1

2/5/1

DIALOG(R)File 347:JAPIO

(c) 2004 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

05262592 **Image available**

DECORATIVE CANDLE AND ITS PRODUCTION

PUB. NO.: 08-218092 [JP 8218092 A]

PUBLISHED: August 27, 1996 (19960827)

INVENTOR(s): KUMAKI MASAO

APPLICANT(s): GUNMA TOOBI KK [000000] (A Japanese Company or Corporation),
JP (Japan)

APPL. NO.: 07-061497 [JP 9561497]

FILED: February 13, 1995 (19950213)

INTL CLASS: [6] C11C-005/00

JAPIO CLASS: 30.9 (MISCELLANEOUS GOODS -- Other)

ABSTRACT

PURPOSE: To obtain a decorative candle capable of emitting light from the surface accumulating light during the daytime in the dark when an emergency situation occurs at night and displaying the location site thereof by coating the surface of a candle body comprising solid oils and fats with a luminous pigment.

CONSTITUTION: This candle is obtained by thermally softening a solid oil and fat body 1 and coating the softened body 1 with a powdery luminous pigment 3. The candle has the solid oil and fat body 1 and a wick 2 and a luminous substance is arranged on the surface of at least the body 1. Furthermore, the luminous substance preferably comprises the luminous pigment without containing any radioactive substance (e.g. the one consisting essentially of a phosphorescent zinc sulfide and having about 20.mu.m particle size).

?

T S3/5/1

3/5/1

DIALOG(R)File 351:Derwent WPI

(c) 2004 Thomson Derwent. All rts. reserv.

010942877 **Image available**

WPI Acc No: 1996-439827/199644

XRAM Acc No: C96-138489

Candle for decoration, easy to locate in dark - has fluorescent luminous material deposited on solid candle grease furnished with wick

Patent Assignee: GUNMA TOOBI YG (GUNM-N)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 8218092	A	19960827	JP 9561497	A	19950213	199644 B

Priority Applications (No Type Date): JP 9561497 A 19950213

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan	Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 8218092	A		3	C11C-005/00	

Abstract (Basic): JP 8218092 A

Fluorescent luminous material is deposited on the solid candle grease furnished with a wick. ADVANTAGE - The candle can be located easily in dark surroundings.

Dwg.1/2

Title Terms: CANDLE; DECORATE; EASY; LOCATE; DARK; FLUORESCENT; LUMINOUS; MATERIAL; DEPOSIT; SOLID; CANDLE; GREASE; FURNISH; WICK

Derwent Class: D23

International Patent Class (Main): C11C-005/00

File Segment: CPI

?

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-218092

(43)公開日 平成8年(1996)8月27日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
C 1 1 C 5/00			C 1 1 C 5/00	H Z

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平7-61497

(22)出願日 平成7年(1995)2月13日

(71)出願人 593081040

有限会社グンマトービ

群馬県伊勢崎市豊城町2104番地 3

(72)発明者 熊木 正男

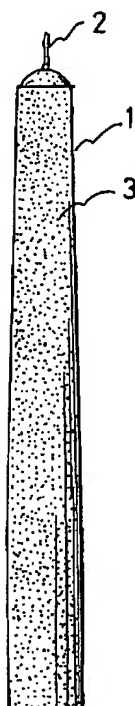
群馬県伊勢崎市豊城町2104番地の 3 有限
会社グンマトービ内

(54)【発明の名称】 装飾用蠟燭とその製造方法

(57)【要約】

【目的】 夜間の緊急事態発生時などの突発的な停電時に暗闇のなかでも存在場所がすぐ確認できるようにすると共に結婚披露宴のキャンドルサービスまたはその他の夜間照明を消すイベントなどに用いて演出効果を高めるようにすることができる装飾用蠟燭の提供。

【構成】 固形油脂本体 1 と灯心 2 を備え、固形油脂本体 1 の表面に蓄光顔料 3 を塗布したものである。



BEST AVAILABLE COPY

- 1 固形油脂本体
- 2 灯心
- 3 蓄光顔料

【特許請求の範囲】

【請求項1】 固形油脂本体と灯心を備え、少なくとも固形油脂本体の表面に夜光物質を配した装飾用蠟燭。

【請求項2】 前記夜光物質は放射性物質を含有しない蓄光顔料からなる請求項1に記載の装飾用蠟燭。

【請求項3】 固形油脂本体を加熱して軟化させる工程と、この軟化させた固形油脂本体に粉末状の蓄光顔料を塗布する工程とからなる装飾用蠟燭の製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、装飾用蠟燭とその製造方法に関する。

【0002】

【従来の技術】従来より固形油脂本体の中心部に灯心を配してなる蠟燭は古来より知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが、このような蠟燭は夜間に緊急事態発生などで、停電したときには、全くの暗闇のため、存在場所の確認に手間とり、不都合をきたしていた。

【0004】

【発明の目的】この発明の目的は、上記のような夜間緊急事態発生などで停電した場合にも、常備されている場所が一目で判断できる装飾用蠟燭を提供しようとするものである。この発明の別の目的は、結婚披露宴のキャンドルサービスまたはその他の夜間照明を消すイベントなどに用いて演出効果を高めることができる装飾用蠟燭を提供しようとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題は請求項1に示す発明のように、固形油脂本体と灯心を備え、少なくとも固形油脂本体の表面に夜光物質を配したもので達成できる。好ましくは、請求項2に示す発明のように前記夜光物質は放射性物質を含有しない蓄光顔料からなるのがよい。また、その製造方法としては、請求項3に示すように、固形油脂本体を加熱して軟化させる工程と、この軟化させた固形油脂本体に粉末状の蓄光顔料を塗布する工程を採用することにより達成できる。

【0006】

【作用】上記の課題達成手段を採用すれば、固形油脂本体に配された夜光物質によって暗闇でも、その存在場所

が容易にわかるより、具体的な上記課題達成手段によれば、夜光物質は放射性物質を含んでいないので危険性がなく、表面だけ塗布されているので、製造方法として上記の手段をとると、簡単に一般の蠟燭を装飾用にすることができる。

【0007】

【実施例】図1はこの発明の装飾用蠟燭の正面図であって、パラフィンなどの固形油脂本体1と灯心2からなり、この固形油脂本体1の表面に粉末の蓄光顔料3を塗布したものである。一般に夜光塗料は発光状態を高めるため微量のトリチウムなどの放射性物質を含むが、ここでの蓄光顔料は放射性物質や有害重金属を含有しないのであって、燐光性硫化亜鉛を主成分としたものであり、粒度20μm程度のものが用いられる。このようにするとパラフィンなどの固形油脂本体1が白色のため、最も効果的に高輝度が得られる。

【0008】このような装飾用蠟燭の製造方法としては、図2に示すように加熱して固形油脂本体を軟化させる工程と、この軟化した固形油脂本体に粉末状の蓄光顔料を付着塗布させる工程を採用するのがよい。このようにすると、表面が軟化することによりパラフィンのような油脂にも容易に蓄光顔料を塗布できる。

【0009】

【発明の効果】この発明は上述のように固形油脂からなる蠟燭本体の表面に夜光物質を配するという簡単な構成により夜間の緊急事態発生時の暗闇の中で昼間に蓄光された表面が発光してその存在場所が明確に判断できるので、パニックなるおそれがない。また、このような装飾用蠟燭を結婚披露宴のキャンドルサービスや、夜間消灯するイベントの時に用いれば、会場の照明が消灯されたとき蓄光された表面が蛍光を発して演出効果を高めることもできる。

【図面の簡単な説明】

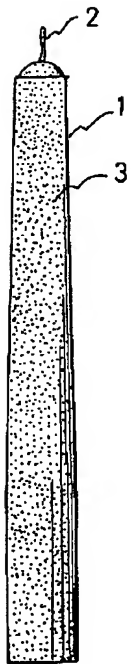
【図1】本発明の装飾用蠟燭の一実施例の正面図である。

【図2】同製造方法の工程図である。

【符号の説明】

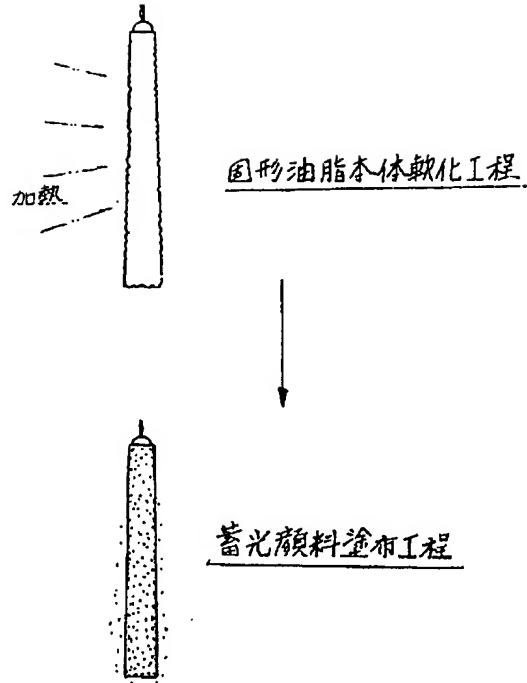
- 1 固形油脂本体
- 2 灯心
- 3 蓄光顔料

【図1】



- 1 固形油脂本体
- 2 灯心
- 3 蓄光顔料

【図2】



BEST AVAILABLE COPY